第 22 号
平成 31年　2月発行
山形県PTA連合会
母　親　委　員　会

山形県PTA 母親委員会だより

ごあいさつ

委員長　髙見　佳澄

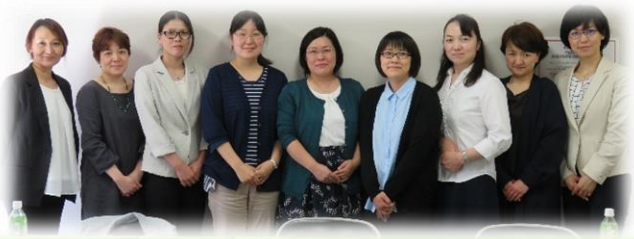
山形県ＰＴＡ母親委員会の活動に、ご理解とご協力をいただきまして、ありがとうございます。また、各郡・市ＰＴＡの母親委員会におかれましても、活発に活動していただきありがとうございます。

今年度は「いのちの尊さ大切さ」のテーマのもと、子どもたちの様子や、各郡・市の母親委員会の活動について情報交換を行ってまいりました。

平成１６年度に日本ＰＴＡの母親委員会の活動休止に続き、東北ＰＴＡの母親委員会もなくなった今、山形県ＰＴＡの母親委員会の存在意義が問われています。そこで、今年度は趣旨・会則を整えるために、まずは母親委員会の存在意義についてとことん話し合うべきだと、情報交換の時間を使い意見を出し合っているところです。母親同士のネットワークの素晴らしさ、母親としての細やかな心づかいなどの利点を生かし、母親委員として子どもの為に何ができるのかを、皆さんと共に考えていきたいと思います。

どんなに時代が変わろうとも、子どもに必要なのは、親である私たちの無償の愛とスキンシップということに変わりはないと思います。また、子どもたちの抱えている課題を解決するには、親同士のつながりが重要ではないかと思います。子どもとのかかわりと親同士のつながりを大切にしながら、母親委員会は活動してまいりたいと思います。

各地区の活動報告



《山形市》
・テーマ「いのちの尊さ大切さ」
　～かかわる喜びつながる心～　に沿った内容で活動
・定例母親委員会　３回（活動方針・情報交換）
・“親学”家庭教育視察研修（まなびあテラス視察）
・拡大母親委員会１回
　講演：「いのちの大切さ学習会」～性教育と子どもの恋愛～
　講師：渡曾睦子　氏（東京医療保健大学教授）
・「マザーズねっとわーく」№23　発行

《北村山地区》
・４月顔合わせ会(村山市)
・３月報告会(村山市)
※村山市Ｐ・大石田町Ｐ・尾花沢市Ｐにおいては母親委員会活動あり。

《米沢市》
・定例母親委員会　年３回
　＊情報交換・・・２回
　＊講演会・・・　１回

《上山市》
・母親委員会　１回
・保護者研修会１回
　講演：「いのちの大切さに関する学習会」
　　～かけがえのない“いのち”のために
　　今、親としてできること～
　講師：後藤敬子　氏（酒田市健康課助産師）

《鶴岡市》
・母親委員会　２回
　①活動方針 情報交換　高校再編計画について
　②講演：「健康を足元から考えよう」
　　講師：三浦　亨　氏（靴工房エーリーズ）
・グループ会議３回（活動･運営方針、研修会企画、情報交換）
・「母親委員会だより」発行

《西村山》
・定例母親委員会　２回（協議・研修）
　研修：各学校母親委員活動の現状と情報交換
・代表委員会　２回（企画運営）
・「母親委員会だより」発行

《酒田飽海》
・母親委員長等会議２回　（活動方針・情報交換・講演会）
　講演：「親業」　コミュニケーションの取り方
　講師：志田伊津子　氏　（親業訓練インストラクター）
・酒田飽海ＰＴＡ研修大会への協力

《西置賜地区》
・定例母親委員会　１回
・「母親委員会だより」発行
・地区Ｐ交流会参加協力

《東田川郡》
・定例母親委員会２回
　＊活動報告
　＊情報交換等

《東置賜地区》
・地区Ｐ代表母親委員１名が県Ｐ母親委員会に出席しています。

《天童･東村山地区》
・母親委員会総会
・母の集い（意見交換会）
　講演：「～共育応援団～共に遊び共に笑い共に育ち合う」
　講師：土屋常義　氏（東根市立大森小学校長）
・「母親委員会だより」発行

《最上地区》
・家庭教育支援フォーラム（兼）ＰＴＡ協議会母親委員全員研修会
　研修：「共に育つ」～思春期を乗り切るための親の役割～
　講師：金澤和子　氏（山形県家庭教育アドバイザー）
・代表母親委員会研修及び情報交換会　２回
・母親委員会だより「かあちゃんほっとらいん」２月発行

各地区ＰＴＡ母親委員会の活動の様子

鶴岡市ＰＴＡ連合会　母親委員会研修会

「健康を足元から考えよう」

11 月 13 日、靴工房エーリーズの三浦亨氏を講師に迎え、研修会を行いました。三浦氏は歩行アドバイザーとしても活動されていて、今回は子どもの靴の選び方や、足元が身体に及ぼす影響などをお聞きしました。「母親は最高のホームドクターであれ」と、子どもたちの不調のサイン、そのサインを見逃さないためのスキンシップの重要性も学びました。

普段はあまり意識しない靴のこと。足裏の状態や靴裏の減り、ちょっとの違和感が足の変形や痛みを生まないよう、注意深く子どもを見てあげようと思いました。

鶴岡市Ｐ：岩田瑛子

米沢市ＰＴＡ連合会　母親委員会研修会

８月 26 日、後藤敬子氏(酒田市健康課助産師)をお迎えし講演会を行いました。これから幼少期･思春期を迎える、また、今迎えているお子さんの日々の子育てに頑張るお母さん方に、産まれてきた命の尊さ大切さを助産師である後藤先生の経験からお話をして頂きました。先生のお話を聞いている中で、出産から現在までを思い出し、涙し、わずかな時間でも子どもと触れ合う大切さを改めて感じました。子どもが失敗した時、挫折した時、“心の絆創膏”になってあげられるように、お母さんを頑張りたいと思いました。

米沢市Ｐ：渡部由美子

第７０回山形県ＰＴＡ研修大会上山大会　平成３０年１０月２１日

～実行委員会スタッフとしての参加～

第７０回の記念大会ということで、著名な方を講師にお迎えして講演会を行うことに決まり、鈴木大地初代スポーツ庁長官にお願いすることになりました。大変ご多忙なために秘書の方を通して連絡を取り合うことになり、諸々の打ち合わせに時間がかかることもあったようです。

『スポーツが変える。未来を創る。』という演題のもと、記念講演では、スポーツがもつ力、日常生活へのスポーツの取り入れ方、部活動のあり方などに関してお話していただきました。

大会運営では、各専門部で役割分担し準備を進めてまいりました。しかし、直前になって仕事の内容が重なっていることが判明したり、反対に業務を加える必要が生じてしまったところがあったりもしました。専門部同士の連携を密にするところがあれば、よりスムーズに準備を整えることができたかもしれないと思いました。

しかしながら、大勢の方々にご協力いただき、そして支えていただいて、研修会のスタッフとしてＰＴＡの事業に参加させてもらえたことは大変貴重な経験となりました。皆様本当にありがとうございました。

上山市Ｐ：髙橋由美

【分科会打合せ】

【鈴木大地長官に花束贈呈】

～県 PTA 研修大会に参加して～

子どもの命を守る PTA 活動というテーマで３人のパネラーのお話を伺いました。戸沢村では地域ぐるみで地域の宝である子どもたちを見守る活動を、また山大附属小では学区が広範囲に及ぶことから公共の場では小さな社会人としての行動ができるよう支援しているという発表がありました。地域が異なると、安全という同じテーマでも課題が違ってくることに改めて気づかされました。共通の懸念事項としては SNS のルールについて議論されました。見える危険と見えない危険、どちらからも子どもたちを守るためそれぞれ努力されていることを知り、自分の視野を広げていただいたと思っています。

東置賜地区Ｐ：金子真紀子

【大会当日：母親委員の方々と】

視察研修
in
山形市Ｐ連

「いのちの大切さ学習会」～性教育と子どもの恋愛～　H30年11月17日

演題：「子どもの人生を守る 生きるためのこころの教育（性教育）を考える」

講師：渡曾　睦子　氏
（東京医療保健大学教授）

●「性」を辞書で引くと

1　生まれながらの心のあり方［性格・個性・天性・根性・気性･･･］
2　物事に備わった性質［良性・悪性・性能･･･］
3　男女の別［男性・女性・異性･･･］
4　異性を求める本能の働き「性欲･･･」

つまり「性」教育とは、
「生きるためのこころの教育」
「人生を全うするまで心と体を大事にして生きるための教育」

●家庭での性教育の重要性

･･･子どもが生まれたときから始まっている！･･

【子ども自身が高校を卒業するまでに果たすべき課題】

【精神的自立】
自分のことは自分で決める。社会の一員として**自覚と責任**を持ち、**自分らしさも確立**する

【経済的自立】
自分自身の**生活をまかなう収入**を得る。学生時代は、将来の自立の準備として、**金銭管理の習慣を身に着ける。**

【生活上の自立】
衣食住にわたる自分の身の回りの**家事や健康を自分自身で管理**する。

【性的自立】
自分の性や**性的欲求をｺﾝﾄﾛｰﾙ**する力を持つ。望まない妊娠や性感染症などの**ﾄﾗﾌﾞﾙを回避**する力を身に着け、**ﾊﾟｰﾄﾅｰの性についても理解し大切に**できる

【家庭で話し合う男女(親)の姿を見せ、問題解決していく姿から子どものコミュニケーション能力を高める】
このことが、
性感染症・人工妊娠中絶・DV等の問題防止だけでなく、命の軽視・虐待・不登校・いじめ等の予防に繋がる！
父母のいない家庭でも、話し合う大切さを教えることによって問題防止に繋がる！

●思春期とは･･･命を生み出す体と心が成熟する時期

心のバランスが悪くなることがよく起こる
- 相手の言い方に敏感に反応して怒る・悲しむ
- 誰かに意地悪したいと思う
- 悩みや不安から死にたいと思う

心の不安定な時期は 3～4 年で終わると認識すること

乗り越えるために
- 友達に話す
  親に相談する
- 正しい知識を持つために調べる
  専門機関に相談する
- 人に無理やり合わせていないか考える
  自分は自分でいいと思う

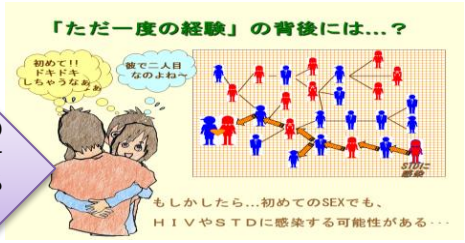
心の不安定な時期に赤ちゃんを育てることになったら？
- イライラして虐待するかも。。。

だから
「人を好きになる」のは当たり前。
だけど
性交渉はまだ早い！
完璧な避妊方法はないから。

自分の相手は一人でも、その相手の後ろに何人もの人が繋がっていて、そのうちの誰かが感染者だったら自分も感染してしまう！

●性感染症は今･･･減ったり無くなったりしたわけではない！

☆HIV キャリア（HIV ｳｲﾙｽ感染者）
･･･毎年新たに 1,000 人罹患
☆AIDS（エイズ）
･･･いきなり AIDS を発症して認知しそれまで HIV 感染者とは知らずに誰かにうつしている
☆性器クラミジア（細菌感染症）
･･･不妊の原因になる
☆梅毒（ｷｽや性交渉で感染）
･･･2013 年から急増中



●今の自分を大事にすることは、繋がっている！

将来の自分を大事にすること！
将来の自分の可能性を守ること！
将来の自分の大切な人に迷惑をかけないこと！

･･マメ知識･･
- 回し飲みでうつる感染症がある（ピロリ菌、無菌性髄膜炎等）
- HIV ｳｲﾙｽは、銭湯やプールでは感染しない
- HIV 感染の検査は、保健所で無料/匿名でできる

北村山Ｐ：須藤恵偉

･･･感　想･･･

現在ＳＮＳなどの普及により、情報過多の時代に生きている子どもたちは、「命」や「性」についてどのようにとらえているのでしょうか。親はどのように教えたらよいのでしょうか。

「性教育」とは生きる教育であり、思春期の心と体の変化、命の大切さ、自分を大切にすること、家族やパートナーを思いやること、人間関係の大切さなど、幅広い内容があることがわかりました。人を好きになることは当たり前、しかし、性行為により性感染症に罹ってしまう恐れがあることや、妊娠・中絶によるリスクがあり、今の自分を大事にしないと将来の自分のチャンスを逃してしまうそうです。人生は繋がっていて将来を見据えることが大切だと学びました。

中３の生徒に質問したところ、多くが、思春期がどのようなものかわかっていないそうです。イライラやむかつき、不安といった症状は正常な思春期が来た証拠。「思春期がきてよかったと思って下さい」とおっしゃっていました。渡曾先生の講演を聴いた生徒から、「自分を大切にしたい」「自殺をしなくてよかった」という感想文をいただくそうです。

親も「性と生」についてきちんと学び、子どもたちが心と体を大切にして生きていけるように導きたいと感じました。

最上地区Ｐ：佐藤実和子

第 66 回 日本PTA全国研究大会新潟大会に参加して

平成 30 年８月 24 日（金）～25 日（土）

教育は未来を拓く　新潟発　米百俵の精神！

～新潟に集い、語ろう　未来のひとづくり～

一日目の分科会は「第２分科会〈家庭教育〉子どもの心が育つ家庭教育」に参加しました。基調講演・実践発表・パネルディスカッションから、子どもたちが幸福になるためには道徳教育が重要であること、愛情を与える人がいれば子どもの道徳心は育つということを学びました。「道徳教育は家庭から」このことをいつも念頭において、子どもの前で喧嘩をしたり、悪口を言ったり、相手の生き方を否定したりしないよう心掛けたいと思いました。

二日目の全体会は、「夢を追いかけつかんだ俳優人生」という演題で、新潟県出身の俳優、高橋克実さんが俳優になるまでの失敗や苦労した話、そしてこれからの夢を語ってくださいました。

夢を持ち続けることの大切さを感じる講演でした。

山形市Ｐ：髙見佳澄

第 50 回 日本PTA東北ブロック研究大会 秋田大会に参加して

平成 30 年９月 15 日（土）～16 日（日）

・・・秋田大会に参加して・・・

全体会記念講演では、秋田出身の橋本五郎さんと女優の菊池桃子さんのお話を聞かせていただきました。
菊池さんは、障害のあるわが子を心配し、無理のない生活をと考えていたそうです。ですが、お子さんから「自分の力で前に進みたい」と言われ、親が道を作るのではなく、後ろから見守ることが大切だとお話されました。
子どもの力を信じてサポートに徹することが難しいときもありますが、伸びしろたっぷりの子どもの成長を陰で支えることで、より良好な親子関係を築けると感じました。

・・・第２分科会　「対話」言葉で築くコミュニケーション・・・

参加した第２分科会では「ワールドカフェ」というメンバーの組み合わせを替えながら 5～7 人単位の小グループで話し合いを続けることにより、あたかも参加者全員が話し合っているような効果が得られる会話の手法で行われました。席を３回移動したので、18 人の方とお話しさせていただきました。それぞれのテーブルでテーマを話し合い、体験談や考え、悩みなどを聞くことができ、他の県での活動内容も大変参考になりました。今後のＰＴＡ活動に生かしたいと思います。

酒田飽海Ｐ：佐藤裕子

・・・第３分科会　「家庭と学校と地域で考える心の教育」・・・

「あなたにとって今一番大切なものは何ですか？」

腰塚勇人先生による基調講演『命の授業』はこの言葉から始まりました。腰塚先生が頚椎を骨折する大怪我を負い、全身麻痺となってしまったところからどのように奇跡の復活を遂げたか、体験談を混じえながら命の大切さ、また夢を叶えるための心の持ち方について語って下さいました。中でも印象深かったのは、「助けて」と言える人、言ってもらえる人になるには、まず相手に自分の気持ちを伝えること、そして不満を言わず、笑顔を心掛けるなど、応援してもらえるような行動をとることが大切であるというお話でした。応援があってこそ、助けがあってこそ成し遂げられる事があり、やりたい事があった時は前向きに、どんどん発信していくべきなのだと感じました。

また、特に参考になったこととして、子どもを叱らなければいけない場面では自分が伝えることと相手に伝わることは必ずしも一致しないということを念頭に置き、内容に応じて強弱が必要であるというお話がありました。子どもが自己肯定感を持てるようにする為には一緒に体験、行動し、同じものを見て触れて感じることで自尊感情を育てていくことが大切であるというお話をお聞きし、今後の子育てに役立てていきたいと思いました。

講演後のパネルディスカッションでは、家庭・学校・地域を結ぶ取り組みについてお話を伺いました。学校の授業の一部、例えば裁縫や自然体験などを地域の得意な方に指導をお願いする際に橋渡し的な役割をする『学校支援地域本部』のことについて伺いました。この取り組みは子どもたちにとっては地域の方と関わりを持つことができて、より深い学習が出来るというメリットがあり、地域の方々にとっても子どもたちと関わることで元気になれたり、より自信が持てるようになるなど地域活性にも繋がるメリットがあるそうです。

東田川郡Ｐ：熊谷千春

編集委員

山形市：髙見佳澄／上山市：髙橋由美

北村山：須藤恵偉／酒田飽海：佐藤裕子

あとがき

この一年間様々な研修会に参加して、たくさんの方と出会うことができいろいろな情報を得ることができました。未来ある子どもたちの健やかな成長を願い、この活動を通して学べたことに感謝します。ありがとうございました。

酒田飽海Ｐ：佐藤裕子